

# 視覚障がい

視覚障がいは、視力、視野など「見る」機能についての障がいです。障がいの程度や状態や生活上の不自由さは人によって様々です。

## 障がいの状態

**全盲**…まったく見えない

**弱視**…見えにくい方。文字の拡大や視覚補助具などを使用し、保有する視力を活用できる状態。視力が低い状態の他に、見える範囲が狭い、光をまぶしく感じる、特定の色がわかりにくい、明るいところではよく見えるのに、夜や暗いところでは見えにくくなる状態も含まれます。

## 意思疎通の手段とポイント

### 点字

指先で触れて読む文字で、6つの点の組み合わせによって文字が表現されています。縦3個、横2個の6箇所の点が一つの単位（マス）で、凸状の点の有無の組み合わせで五十音や数字、アルファベット、記号を表すことはできますが、漢字・カタカナの表現はありません。

点字は視覚障がいのある方にとって重要な意思疎通手段ではありますが、必ずしも視覚障がいのある方が皆、点字を読めるわけではありません。

### 拡大文字

弱視の人が読めるよう、大きなサイズで印刷します。

拡大文字の最適な大きさは人によって異なります。行間、書体、字の太さにも配慮が必要であるため、可能であればあらかじめ読みやすい大きさを確認しておくことが最適です。元の資料を拡大コピーしただけでは、見やすい資料にはなりません。

### 音訳・音声コード

書籍などの視覚情報を補助者による代読やパソコンの音声読み上げソフトを用い、情報を入手します。

また、文字情報をデジタル情報に変換した「音声コード」は、専用の読み上げ装置やスマートフォンの専用アプリケーションを使って読み取ると、収録内容を音声で読み上げさせることができます。

## 配慮のポイント

### 会議やイベントでは

会議やイベントなどで配布する資料などは、参加する方の**希望を確認し、点訳や拡大文字版を用意**するなど、配慮を心掛けましょう。

### 話しかけるときには

何か困っていたら、**体に触れる前に、前方から「何かお手伝いが必要ですか」と声を掛けてください。**

### 説明をするときには

場所や物の位置を示す場合は、「あっち」「それ」などではなく、「時計で9時の方向」など**具体的な視覚情報を表す言葉で説明**しましょう。

### 街の中では

白杖や盲導犬を利用して単独で移動できる方もいますが、**点字ブロックの上に、自転車などを置かないよう**にしましょう。

## 当事者団体からのメッセージ

視覚障がいのある方から援助を求めることが難しく、戸惑うことがあります。音の出ない信号機や交差点では、車の音などを頼りに渡ることもあります。

移動などの際、簡単な説明がないと障害物を避けきれないことや、点字ブロックの上に自転車などがあると、ぶつかって転倒してしまうことがあります。

### 【相談・問合せ先】

一般社団法人北海道視覚障害者福祉連合会

日本赤十字社北海道支部点字図書センター

※詳しくは、障がい福祉関係団体のページをご覧ください。